

2021 年度

日本福祉大学大学院 科目等履修

開講科目 科目概要

【後期】



日本福祉大学大学院

# 目次

## ■履修登録期限【後期】科目 ※前期・後期履修登録期間ともに登録可能

地域福祉論	1
医療福祉経済論	2
精神保健福祉論	3
保健・医療・福祉サービス論	4
心理統計法特論	5
ケアマネジメント論	6
人材マネジメント論	7

科目名	地域福祉論	2単位
担当者	野口 定久	
テーマ	地域コミュニティの充実と未来の地域福祉学	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 包容社会、社会構想学、福祉コミュニティ、コミュニティソーシャルワーク、地域包括ケア、多職種連携</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 新型コロナウイルスを含めた、新たな福祉問題(社会的リスク)は、そのほとんどが地域コミュニティの「場」で発生している。グローバル化とローカル化が同時に進行する中では、これらの福祉問題を地域コミュニティにおいて総合的に解決する方法が求められている。これからの超高齢少子人口減少社会を支える地域福祉の政策と実践、地域再生計画、居住福祉のまちづくり事例、コミュニティケア・小規模多機能施設、家族やジェンダー等の対象テーマをめぐって、3つの理論(ソーシャル・キャピタル、ローカル・ガバナンス、コミュニティソーシャルワーク)を中心に講義を組み立てる。また、各地の地域福祉及び居住福祉の実践事例に学びながら、地域独自の政策や実践を計画化し、地域包括ケアをマネジメントする理論と手法を追及する。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ①地域福祉の理論・政策・実践・技術を体系的に学ぶことができる。 ②各地の住民主導型の地域福祉計画の策定および推進方法を具体的に学ぶことができる。 ③地域の資源を活用した社会的企業およびコミュニティ・ビジネスの実践例等を参考に、地域再生の方法論について学ぶことができる。 ④包摂型福祉社会の推進をリードする地域福祉専門職のコミュニティソーシャルワーク、ソーシャルアクション、地域資源開発、個別問題解決等の活動方法論を学ぶことができる。 ⑤居住福祉社会の実現に向けた具体的な事例を学ぶことができる。 ⑥コミュニティソーシャルワーク事例研究法から多職種連携のためのアセスメントの方法を学ぶことができる。</p>	
授業の進め方	1講 人口減少社会の地域福祉 2講 地域福祉の理論と構成 3講 地域福祉運営の理論と実際 4講 地域ケアの政策と対応システム 5講 社会福祉サービスのデリバリー・システム 6講 地域福祉の主体形成 7講 住民福祉活動の進め方 8講 ボランティア活動等の実態把握 9講 地域福祉の人材養成 10講 地方分権と地域福祉 11講 地域福祉の政策と計画 12講 社会福祉調査の理論と方法 13講 地域福祉計画の策定戦略 14講 地域福祉計画と住民参加 15講 地域福祉計画の策定過程:計画の策定プロセス/策定モデル1-都市部/策定モデル2-山間部	
事前学習の内容 学習上の注意	この講義は、パワーポイントを用いたビジュアルな情報伝達と実地研究による現場の思考が教材です。現場の事象⇒経験知⇒形式知⇒実践知の研究方法論を用います。分断社会から包容社会への転換を主テーマに、世界の経済情勢、地域文化、家族関係、生活習慣等の相違点や共通点など新聞や書籍、IT 等から情報を収集するように努めてください。	
本科目の 関連科目	私の研究テーマと方法、福祉教育方法論	
テキスト	野口定久『ゼミナール 地域福祉学-図解でわかる理論と実践』中央法規、2018年	
参考文献	野口定久『人口減少時代の地域福祉』ミネルヴァ書房、2016年 岩田正美監修:野口定久・平野隆之編著『リーディングス日本の社会福祉 6 地域福祉』全400頁)日本図書センター、2011年	
成績評価 方法と基準	中間レポート3回(10点×3回 A4×1枚)、最終レポート(50点×1回 A4×3枚)、講義・演習等での発言など出席の姿勢(20点)により評価し、総合評価60点以上を合格とする。	

科目名	医療福祉経済論	2単位
担当者	二木 立(非常勤教員、日本福祉大学名誉教授)	
テーマ	医療・福祉の経済分析と政策研究の基礎	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 医療経済学、医療政策研究、地域包括ケアと地域共生社会</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 本講義は院生が医療・福祉の経済分析の基礎知識・考え方を身につけることを目的としている。そのために、医療経済学の基礎(医療の経済的特性、医療の経済分析の手法等)とその応用(医療・福祉サービスと政策の経済的分析)を、主に私の著作や論文を用いて、経済学の基礎知識がない院生も理解可能なように、分かりやすく、具体例を交えて講義する。講義では、私の研究の結果だけでなく、テキストや論文に詳しくは書いていない、私が研究を始めた動機や研究途中の失敗談、研究ノウハウ等も紹介する。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ①医療・福祉に関する経済分析と政策研究の基礎的知識・考え方を理解する。 ②講義とレポート添削により、論文読解と論文執筆に必要な研究方法論を身につけることができる。 ③後半(第8~13回の6回)はゼミ形式で行うことにより、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につけることができる。</p>	
授業の進め方	<p>第1回 オリエンテーション、「医療経済学の将来」と研究者の政策形成への寄与 第2回 医療・介護サービスの経済的特性 第3回 医療・介護サービスの経済的特性(続き) 第4回 国民皆保険制度の社会経済的分析 第5回 医療効率と費用効果分析—地域・在宅ケアを中心として 第6回 医療技術と医療費への影響 第7回 特講:私の最新の研究テーマのうち、履修者・聴講者の一番希望の多いものを話す ※第8、9回はテキスト(2)を、第10~14回はテキスト(3)を用い「ゼミ形式」で行う(毎回受講者の1人がテキストの該当章について文書で報告し、討論) 第8回 医療政策の分析枠組み、医療政策の将来予測の視点と方法 第9回 私の医療経済・政策学研究の視点と方法、資料整理の技法 第10回 新型コロナウイルス感染症と医療改革 第11回 経済産業省主導の予防医療推進政策の複眼的検討 第12回 日本の病院の未来と地域医療構想 第13回 地域包括ケアと地域共生社会 第14回 医療経済・政策学の論点 第15回 レポート返却・講評、質疑応答</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	<p>○毎回の授業前に、『講義資料集』とテキストの指定された箇所を事前に読んでおくこと。 ○毎回授業の最後10分間に質問を受け付けるので、聞き逃したこともっと詳しく聞きたいことを積極的に出すこと。 ○講義開始前の30分間を「オフィスアワー」とし、質問・相談を受け付ける(予約不要)。 ○今年度は、リアル講義とzoom講義を併用する(後者は主として大学院生以外の聴講者用)</p>	
テキスト	<p>(1)「2021年度『医療・福祉経済論』講義資料集」(テキスト(2),(3)以外の使用文献を収録)。 (2)二木立『医療経済・政策学の視点と研究方法』勁草書房,2006。 (3)二木立『コロナ危機後の医療・社会保障改革』勁草書房,2020。 (2)・(3)は各自、事前に購入する:(2)は品切れなので、書店または勁草書房に直接「オンデマンド出版」を注文するか、Amazon等で古書を購入する。</p>	
参考文献	<p>二木立『保健・医療・福祉複合体』医学書院,1998。 二木立『介護保険制度の総合的研究』勁草書房,2007。 二木立『地域包括ケアと地域医療連携』勁草書房,2015。 二木立『地域包括ケアと福祉改革』勁草書房,2017。 二木立『地域包括ケアと医療・ソーシャルワーク』勁草書房,2019。 二木立『医療経済・政策学の探究』勁草書房,2018。</p>	
成績評価 方法と基準	<p>講義出席点(50点満点)とレポート(50点満点)を総合して評価する。 ゼミ形式で行う第8~14回の報告者は20点加点。 レポートは第14回講義前にメールで私宛提出する。提出されたレポートは個別に添削・評価し、第15回講義前にメールで返却し、講評と質疑応答を行う。</p>	

科目名	精神保健福祉論(隔年開講、2022 年度開講)	2単位
担当者	大谷 京子	
テーマ	精神保健福祉領域における実践、現状と課題	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 精神保健福祉、 ソーシャルワーク、 地域生活支援、 実践理論、 障害者福祉の理念</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 精神障害が日本の歴史の中でいかに扱われてきたかを概観し、それが現状にどのような影響を落としているかを学ぶ。またソーシャルワーク実践の基礎となる理念、理論についても議論する。その上で、精神障害者の不利益を知り、生活支援のあり方を検討する。 事例を題材としながら、精神障害者に対するサポートの現状と課題を検討したい。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ①日本の精神保健福祉の現状と課題を説明できる。 ②障害の概念・障害者福祉の基本理念を理解する。 ③精神保健福祉に関連するテーマについて、議論し、まとめ、プレゼンテーションできる。</p>	
授業の進め方	第1回 オリエンテーション / 第2回 精神障害者の生活実態 第3回 精神障害者家族の置かれている状況 第4回 障害概念の変遷1 / 第5回 障害概念の変遷2 第6回 障害の社会モデルの考え方/ 第7回 精神障害者の権利擁護 第8回 ソーシャルワーク実践が依拠する理念と理論 第9回 エンパワメントとパターンリズム 第10回 精神障害者地域生活支援の事例検討① 第11回 精神障害者地域生活支援の事例検討② 第12回 地域精神保健福祉活動の方法 第13-14回 受講者によるプレゼンテーションおよびディスカッション 第15回 まとめ	
事前学習の内容 学習上の注意	<input type="checkbox"/> プレゼンテーションについて 後半の授業で、精神保健福祉の現状と課題について、グループで10分程度のプレゼンテーションをしていただきます。たとえば「いかに効果的にチームアプローチを展開できるか」、「精神障害者に対する偏見をなくすためには」など、テーマは自由です。2時間ほど、グループでの検討時間を授業時間内に提供しますが、それだけでは足りませんので、授業時間外での準備が必要になります。 <input type="checkbox"/> 初回授業の時に、あらかじめ参考文献の中から1冊を読んでレポートを提出してください。 日本の精神保健福祉がたどった特殊な歴史と現状を踏まえ、その原因は何かについて考察してください。タイトルは自由です。A4用紙に40文字×40行で1600文字以内です。	
本科目の 関連科目		
テキスト	テキストは利用せず、プリントなど資料を用意する。	
参考文献	芹沢一也(2005)『狂気と犯罪 なぜ日本は世界一の精神病国家になったのか』講談社. 岡崎伸郎(2020)『精神保健医療のゆくえ—制度とその周辺』日本評論社. 大熊一夫(2009)『精神病院を捨てたイタリア捨てない日本』岩波書店. ヒーザー・スチュアート(2015)『パラダイム・ロスト』中央法規出版.	
成績評価 方法と基準	レポート(40%)、プレゼンテーション(30%)、コメントカードの提示(30%)によって評価をおこない、全体で60%以上を合格とする。	

科目名	保健・医療・福祉サービス論	2単位
担当者	藤井 博之（非常勤教員）・近藤 克則（非常勤教員）	
テーマ	保健・医療・福祉のマネジメント課題の全体像を学び、実践と研究に活かす	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt;  保健・医療・福祉  マネジメント・サイクル  ミッション、ビジョン、ゴール  多職種協働 (interprofessional collaboration)  健康の社会的決定要因 (social determinants of health)</p> <p>&lt;内容の要約&gt;  日本はいまや高齢人口割合が世界一多い国である。保健・医療・福祉サービスのいずれかを必要とする高齢者は、同時に他のサービスも必要とする。いずれかの分野で働く者は、保健・医療・福祉サービスの全体を学ばねばならない。質の高いサービスを提供するには、ミクロ（臨床）レベルの技術だけでなく、それを支えるチーム・組織、システム、政策に至るすべてのレベルにおけるマネジメントが影響する。  本講義では、保健・医療・福祉職に必要なミクロ（臨床）レベルの QOL (quality of life) やケア・マネジメントから、メゾ（チーム・事業所）レベルのマネジメント、マクロ（政策）レベルの医療・介護・社会政策的マネジメントまで取り上げて論じる。  保健医療福祉サービスの特性・固有性と、レベルや領域を超える「マネジメント」の普遍性の両面から、その基礎的な概念を講義と院生同士の職種を超えたディスカッションで学ぶ。</p> <p>&lt;学習目標&gt;  保健・医療・福祉の各場面におけるマネジメントの必要性を理解する。  現場の課題をミクロ、メゾ、マクロの各視点から説明できる。  現場の課題に種々のマネジメント手法を応用することができる。  現場の課題の社会的・制度的背景を理解し、現場のマネジメントに役立てられる。  多職種協働の必要性、困難性、実現可能性を説明できる。</p>	
授業の進め方	第1回 オリエンテーションー保健・医療・福祉サービスマネジメント総論（藤井） 第2回 ケース理解とサービスの質を捉える枠組み（藤井） 第3回 ケアマネジメント（1）マネジメント・サイクル（藤井） 第4回 ケアマネジメント（2）問題分析と解決志向（藤井） 第5回 保健・医療・福祉における人材の確保・養成（藤井） 第6回 マネジメントと戦略（藤井） 第7回 チーム・組織のマネジメント（1）チームワークと援助技術（藤井） 第8回 チーム・組織のマネジメント（2）リスク管理と経営（藤井） 第9回 保健医療福祉の半世紀とNPM（近藤） 第10回 医療政策（近藤） 第11回 超高齢社会と福祉産業のmission・chance・risk（近藤） 第12回 高齢者医療介護の課題（近藤） 第13回 保健・介護予防政策のマネジメント（1）（近藤） 第14回 保健・介護予防政策のマネジメント（2）（近藤） 第15回 研究と教育のマネジメント（近藤） ・臨床→チーム→組織→政策の順に進める予定だが、講師の都合で順番が変更になる場合がある。	
事前学習の内容 学習上の注意	テキストの該当部分を予習すること。	
本科目の 関連科目	「ケースメソッド演習」	
テキスト	近藤克則著：「医療・福祉マネジメントー福祉社会開発に向けて 第3版」改訂版、ミネルヴァ書房、2017	
参考文献	藤井博之編著：保健医療福祉キーワード研究会：保健医療福祉のくせものキーワード事典,医学書院,2008 藤井博之編著：ラーニングシリーズ I P 保健・医療・福祉専門職の連携教育・実践第1巻 I P の基本と原則,協同医書, 2018 藤井博之：地域医療と多職種連携,勁草書房,2019 近藤克則：健康格差社会ー何が心と社会を蝕むのか,医学書院,2005 近藤克則：「医療クライシス」を超えてーイギリスと日本の医療・介護のゆくえ,医学書院,2012 近藤克則：健康格差社会への処方箋. 医学書院, 2017 近藤克則：長生きできる町、角川新書、2018 近藤克則：研究の育て方ーゴールとプロセスの「見える化」,医学書院,2018	
成績評価方法 と基準	毎回、ミニ・レポート、感想、質問を出席カードまたは Web、メールで提出してもらいます。 レポートは 2000 文字から 3000 文字程度 (A4 版で 2 枚以内)。テーマは講義中に示します。〆切り 1 月 21 日、大学院事務室が指定する提出 BOX に提出してください。 出席(20 点)とレポート(80 点)の割合で評価します。	

科目名	心理統計法特論	2 単位
担当者	吉原 智恵子	
テーマ	心理尺度の構成および相関研究の実践を通して、各種心理統計の技法を習得する	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 心理統計、心理尺度の構成、相関研究</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 本特論では心理学研究の基礎的な統計手法について、実践を通して習得する。そのため、心理尺度を自身で作成し、この尺度によって測定される特性とパーソナリティの主要5因子との関係を調べる相関研究を実践する。まず記述統計と心理尺度の構成、および相関研究に関する基礎的な学習を行ない、質問紙を完成させる。その後各自で収集したデータをもとに、心理尺度の構成において求められる項目分析や因子分析、さらにパーソナリティとの相関研究などにより、各種の心理統計技法を学ぶ。解析は統計パッケージ（SPSS）を使用する。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 心理学研究に用いられる統計の基礎を理解する。 各種統計手法を用いた心理データの分析を実施することができる。 心理尺度の構成を自身で行うことができる。</p>	
授業の進め方	第1回 イン트로ダクション 第2回 記述統計と尺度構成の基礎 第3回 尺度項目の作成 第4回 相関研究の基礎 第5回 質問紙の作成 第6回 基本統計量の算出 第7回 推測統計の基礎 第8回 項目分析（I-T 相関）、信頼性分析 第9回 因子分析1 第10回 因子分析2 第11回 t検定 第12回 分散分析 第13回 クロス集計とカイ二乗検定 第14回 その他の解析 第15回 まとめ	
事前学習の内容・学習上の注意	演習内容は知識やスキルを積み上げていく構成となっている。そこで各回各自で復習を行い、学習内容を習得していることを前提とする。また授業時間外にデータ収集など課題を課すことがある。なお、授業では統計解析パッケージ（SPSS）を使用する。受講生にはPC操作の基礎的スキルが求められる。	
本科目の関連科目	心理学研究法特論	
テキスト	使用しない（レジュメを使用する）。	
参考文献	授業内で指示する。	
成績評価方法と基準	課題レポート（30%）、演習への積極的参加度（30%）、最終レポート（40%）により評価をおこない、全体で60%以上を合格とする。	

科目名	ケアマネジメント論	2単位
担当者	上原 久(非常勤教員)	
テーマ	ケアマネジメントの理論と実際	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 1. 多職種連携 2. ケアマネジメント 3. チームワーク</p> <p>&lt;内容の要約&gt; ケアマネジメントの概念, 歴史, 分類, 適応, 効果などの全体像を整理すると同時に, 多職種が協同して事例理解を深める方法や連携の在り方について, ケーススタディーを用いながら体験的に学ぶ。後半では, 介護支援専門員や相談支援専門員を招き, 実際の事例を題材に事例検討会形式で多職種による事例理解の深め方・目標設定の仕方・計画策定の方法など, ケアマネジメントの実践技術を学ぶ。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ・実践技術としてのケアマネジメントについて理解できる。 ・連携の概念について理解できる。 ・多職種連携に不可欠な事例理解の深め方を理解できる。 ・情報共有の手法について理解し実行できる。</p>	
授業の進め方	第 1 回 ケアマネジメントの概要と意義、歴史と類型 第 2 回 インテーク、アセスメント、プランニング、 第 3 回 モニタリング、インターベンション 第 4 回 エバリュエーション、ターミネーション 第 5 回 関連技術、スーパービジョン 第 6 回 連携の関係性と質、チームワーク、 第 7 回 ケア会議の必要性、ケア会議を構成する要素 第 8 回 ケーススタディー① 第 9 回 ケーススタディー② 第10 回 ケアマネジメントの実際① 第11 回 高齢者領域における課題 第12 回 ケアマネジメントの実際② 第13 回 障害者領域における課題 第14 回 その他の領域(就労・生活困窮者)における課題 第15 回 振り返りと総括	
事前学習の内容 学習上の注意	○指定したテキストを事前に読んでおくことが望ましい。 ○ソーシャルワーク論や保健・医療・福祉サービス論等の基礎的な科目に関する基本的な知識を前提として講義を進める。 ○毎回の授業終了時に、次回の資料や論文を配布するので読んでおくこと。 ○ディスカッションには積極的に参加すること。	
本科目の 関連科目	ソーシャルワーク論、保健・医療・福祉サービス論、スーパービジョン論、地域福祉論	
テキスト	①上原久:「ケア会議の技術2」(中央法規出版) ②上原久:「生活困窮者支援のための連携のかたち」(中央法規出版) ③上原久:「見立てを深めるための事例検討会」(Next Publishing Authors Press)	
参考文献	①野中猛、上原久:「ケア会議で学ぶケアマネジメントの本質」(中央法規出版) ②野中猛ほか:「多職種連携の技術」中央法規出版	
成績評価 方法と基準	1回ごとのコメントカードの提示(20%)、ディスカッションへの参加度(20%)、提出レポート(60%)の方法で評価をおこない、全体で60%以上を合格とする。	



□講義科目(専門科目)

科目名	人材マネジメント論	2単位
担当者	斐 英洙(非常勤教員)	
テーマ	医療・介護組織における人や組織のマネジメントを学ぶ	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; リーダーシップ、モチベーション、組織行動論、ケースディスカッション、相互作用</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 人材マネジメントは、「ヒト」と「組織」を最大限効果的に機能させるために欠かせないもので、組織が継続的に発展するために、最も重要となる活動です。経営資源の「ヒト」「モノ」「カネ」のうち、ヒトは意志と感情を持って動くものです。上手に活用すれば(=マネジメントすれば)組織に大きな価値をもたらしますが、活用を間違えば組織の価値を減じます。ヒトと組織をマネジメントしていく方法を、講義とケースディスカッションを通じて学んでいきます。本講座の特徴は、ケースディスカッションを多めに配置しており、講師との一方向のやり取りでなく、講義参加者同士の相互作用を醸成していきます。さらに、発表機会が多くなることで、プレゼンテーション能力や傾聴力を養うこともできます。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ・人材マネジメントの基礎を学ぶことができる ・組織行動論の基礎を学ぶことができる ・討議を通じて他職種の視点を獲得することができる ・討議発表を通じて人に分かりやすいプレゼンテーション能力を養うことができる</p>	
授業の進め方	<p>第1回 人材マネジメントの基礎(1) 第2回 人材マネジメントの基礎(2) 第3回 人材マネジメントの基礎(3) 第4回 リーダーシップ(1) 第5回 リーダーシップ(2) 第6回 モチベーションとコミットメント 第7回 グループとチームワーク 第8回 医師・介護・看護職のキャリアの問題点 第9回 人材の確保と定着 第10回 経営現場における人材課題(1) 第11回 経営現場における人材課題(2) 第12回 人材マネジメントの複合的課題(1) 第13回 人材マネジメントの複合的課題(2) 第14回 人材マネジメントの複合的課題(3) 第15回 総括</p> <p>原則的に、「講義」+「ケースディスカッション」で構成されます。各回の内容はクラスの理解・進捗具合により、多少変更することがあります。講義内で外部からの特別講師による実務家講演を実施する場合があります。</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	<p>・指定した参考文献を事前に読んでおくことがのぞまれます。 ・授業への積極的参加を重要視するため、参考文献等を読んで不明な専門用語の意味等は事前に理解してください。 ・第1回目以降は、テーマの書籍・論文・資料など教材を指示することがあります。</p>	
本科目の 関連科目		
テキスト	テーマと課題に応じて、担当者が作成した資料等をもとにクラスを運営します	
参考文献	<p>斐英洙「医療職が部下を持ったら読む本」(日経 BP 社) 斐英洙「医療職が部下に悩んだら読む本」(日経 BP 社)</p>	
成績評価 方法と基準	授業での発言点(60点)、出席回数(20点)、レポート(20点)により評価し、総合評価60点以上を合格とします	